



# 静岡 陸協 会報

第 12 号 (2012年 3月25日 発行)

静岡陸上競技協会  
〒420-8508  
静岡市葵区鷹匠1-14-31  
吉野寿ビル 2F  
TEL・FAX 054-253-9801



会長挨拶  
鈴木 修  
静岡陸上競技協会会長

昨年会長職をお受けして以来、皆様から色々なお話を伺い、また様々な会議の場で会員の皆様から現状のご説明をいただきました。これまでの皆様のご協力に感謝申し上げます。

また五月の静岡国際陸上、七月の県選手権大会、或いは十二月のしずおか市町対抗駅伝といった大会に出席して、終日大会の現場を拝見させていただきました。十一月のふじのくに新東名マラソンでは残念ながら出席できませんでした。後でお話を伺って大変なトラブルがあったということを知りました。とにかくまずは会長として陸上競技大会の現場をまわり、現状を知ること努めました。

率直に申し上げて、各大会の中で見たこと聞いたことの全てがこれまでの五十余年の間、民間企業に籍を置いてきた者からすると別世界のことであり、私の知

るビジネスの世界とは全く異なる常識がある、ということを感じました。

私どものような企業と違って社会奉仕的な意味合いの強い集まりですので、運営には違ったご苦労があるかと思えます。この点でこれまで浜松商工会議所、浜松市財政改革推進審議会、静岡県の浜名湖花博などの運営に参画してまいりましたので、わずかな経験ではございますが、異なるバックグラウンドをお持ちの皆様をまとめていくことの難しさは理解しているつもりです。

陸上競技協会もこういった集まりに近いのではないかと感じており、企業以上に人と人とのつながり・結びつき・コミュニケーションがますます重要になるとの思いを強く致しました。それだけでなく、相手の立場になって物事をまとめ、推進していくことが必要であると痛感致しております。

そのためには企業統治・企業の組織の一員としての在り方とは違い、異なる経験・出身を持つ会員各位を一つの目標に向けてまとめっていくこと、並びに民間企

業よりも厳密なルール・管理体制を整えることが必要だと感じました。

先に申し上げました通り、多少は会社以外の団体での経験がありますので、陸上競技協会についてもある程度は覚悟し、予想はしておりましたが、意外や意外、旧来の陋習・慣習、しきたり・しがらみといったものに縛られてルール化がなされておらず、「昔からそうしてきたから」と何の抵抗もなく、何の疑問も感じずに従ってきたことを知り、驚くと同時に体質の古さを強く感じました。これが一般財団化を進めることが必要となる所以なのです。

時代の変化と共に、公共団体の在り方というものも常に改善・改良されなければなりません。我が国の陸上競技の発展を担うリーダーとしてのプライドを持って、陸上競技協会が近代的な事業推進母体とし存続していくために、一日も早く実現すべきことについて提案致しますので、会員の皆様の率直なご意見をお聞かせいただきたいと思います。

- ①県内各地で行われる、陸上競技協会主催・共催・協力・協賛の各種大会に於ける、役割・責任の所在・権限の明確化並びに会計の公開
- ②一般財団法人化の早期実現の推進
- ③役員任期・定年制並びに、会長職の東・中・西部での輪番制の明文化 等々

静岡県の陸上競技の健全な発展のために全身全霊を捧げてまいりますので、会員の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



平成二十三年度  
後期の報告  
和田隆保  
理事長

最後となりましたが、会員の皆様の更なる活躍並びに静岡県の陸上競技の今後ますますの発展を祈念申し上げます。なお、私自身一年足らずのわずかな期間で見聞きした程度の知識しかございませんので、毎年行われております各種大会など経験豊富な皆様から様々、且つ具体的なご意見・ご提案を事務局までいただけますことをお待ち申し上げます。

八月以降の事業報告及び主な競技会の結果を報告します。本年も大雨、強風、そして台風上陸と大変不順な天候でしたが、主催、主管競技会は県市町対抗駅伝まで予定通り実施することができました。まずは皆様のご協力に感謝申し上げます。八月七日に第三十六回富士登山駅伝、二十七日に第三十一回ジュニアオリピック予選を草薙で実施しました。今年のインターハイは岩手県北上市で開催され、男子走高跳びで浜松市立高の平龍彦君が優勝、女子四×一〇〇mRで浜松市立高が県高校タイ記録で2位、女子総合でも6位入賞と健闘しました。県全体での入賞者数も昨年より少し上まわりました。また、全日本中学陸上は奈良市で開催されました。男子四×一〇〇mR浜松竜中が2位に入りましたが、昨年に比べると少し元気がなかったように思います。全国小学生交流大会では女子走幅

跳で小野田史紗さん(千代田A.C.)が優勝、女子四×一〇〇mR裾野市陸上教室が2位と頑張りました。昨年より招待されていました台湾、台北市でのアジアインターシティ大会ですが、本年初めて選手を派遣しました。二十七日、二十八日に開催され、女子二〇〇m・四〇〇m、四×一〇〇mRに優勝、入賞するなどして一定の成果を上げ、国体にも良い刺激となりました。今後の派遣方法、参加種目等は検討したいと思います。

八月の終わりから九月の初めにかけて開催された、テグ世界陸上選手権には、本県よりスズキ浜松A.C.の村上、右代、海老原の3選手が出場しましたが残念ながら入賞はできませんでした。但、海老原さんの決勝進出は高く評価されます。ロンドンオリンピックには3名揃って代表になり、入賞を果たして欲しいものです。

九月十八日県障害者スポーツ大会を草薙で実施しました。

十月に入り一日、二日に県高校新人大会を草薙で開催、男女とも浜松市立高が優勝しました。更なる躍進を期待しています。

県中学新人陸上は八日に草薙で実施しました。来季が楽しみな新人が数多く見られました。十六日に第四十回小学生陸上を草薙で、雨を心配しましたが幸い天候も良い方向へ向い今年も元気な競技を見せてくれました。三十日に第二十七回静岡マスターズを草薙で開催しました。

第六十六回国民体育大会は七日から十一日まで山口市で行われ天皇杯二位(111・5点)皇后杯五位(55点)の好成績

でありました。昨年に続き男子四×一〇〇mRが県タイ記録で、また、少年女子A四〇〇mでは名倉彩夏さん(浜松市立高)が県新記録で優勝しました。参加29種目中20種目に入賞する素晴らしい結果でした。選手団全員が一丸となって静岡らしい闘いができたと思います。選手を育て送り出してくれたホームコーチの皆さんの協力も大きな力になりました。次回からは実施種目も変わりますが常に一〇〇点以上がとれる地力を養い、優勝を目指していきたいと思えます。なお、この国体で本協会副会長勝又瑛逸氏が秩父宮章を授与されました。二十一日から名古屋市で行われた日本ユース選手権では、国体で活躍の名倉さんが大会新記録で女子四〇〇mに優勝、女子四×一〇〇mRでも浜松市立高が大会新記録で優勝しました。また、横浜市で開催されたジュニアオリンピックではBクラス女子走幅跳で天城帆乃香さん(浜松天竜中)が大会新で、また女子四×一〇〇mRで県選抜チームが大会新でそれぞれ優勝しました、ともに県中学新記録の立派な結果でした。

十一月三日に第二回エコパトラックゲームズをエコパで行いました。日本陸連からの急な要請があり、西部支部のご協力により男子走幅跳オリンピック標準記録挑戦競技も組み入れて実施しました。駅伝シーズンに入り六日に男子六十二回、女子二十四回県高校駅伝をエコパとその周辺道路で開催しました。男子は浜松日体高、女子は三島北高がともに五回目の優勝を果たしました。十二月二十六日京都での全国高校駅伝では浜松

日体高校が七位に入り、本県勢では実に十九年振りの入賞でした。エースのいないチームで全員が力を出し切ったのレースに感動しました。一週間後県中学駅伝も同じエコパで実施し、男子は小山中が初優勝、女子は7年連続で御殿場富士岡中が優勝しました、十二月の山口県で行われた全国中学駅伝では富士岡中が2位、小山中が9位と大健闘を見せてくれました。小山中は陸上部のない学校で全校から選抜された他の競技の選手がメンバーだそうです。これからは是非続けていって欲しいものです。

本年は春の高校総体とともに東海高校駅伝も主管する年でもありました。二十七日に県高校駅伝と同じコースを使用して実施しました。一般公道でなくアップダウンのある公園内周回コースだったので、他県の反応が気になりましたが、概ね良好に受け入れていただけました。優勝は男子豊川工業、女子豊川高の愛知勢で、県駅伝より数分よい記録に力の差を感じました。二十日に開催しました新東名マラソンであります、給水の問題で批判を受けました。前日の強風と大雨、それに当日の異常な高温が重なったことが大きな原因ですが、多くの参加された方々に苦痛と不快な思いをさせたことは事実です。役員、補助員は精一杯対処しましたが残念です。今後、他団体との共催はもっと慎重に考えたいと思います。会員の皆様にはご心配をお掛けしましたことをお詫び申し上げます。特に東部支部の皆様にはご苦勞をおかけしました。お礼を申し上げます。二十五日日本陸連主催の『キッズアスリートプロ

ジェクト夢のキャラバン隊』を菊川市の協力により小笠南小学校で実施しました。飯塚君(中大)、右代君、海老原さん(スズキ浜松A.C.)など本県のトップアスリートも指導に当たりました。

十二月に入り三日に第十二回県市町村抗駅伝を開催しました、今回は工事等の影響で若干コースとそれに伴い区間距離の変更をしました。スタート時は雨模様でしたが徐々に雨も上がり、39チームが例年通りの熱戦を繰り広げました。市の部は浜松市西部が二連覇、町の部は長泉町が最終区間で逆転し四連覇を成し遂げました。敢闘賞は沼津市、熱海市、下田市、河津町、西伊豆町の東部の5市町でした。大きな市に小さな市町が挑んでいく。結果はどうあれ、終わったらお互いを称え合い、親睦を深める。そんな駅伝競走にしたいものです。今後も全市町参加を最優先で考え、選手の発掘、育成、強化に役立てていく所存であります。三回の県長距離記録会も実施しました。11日に県陸上指導者講習会を草薙で行いました。理事委員長会議は八月十三日県体協会議室で開催しました。

本年度も中日浜名湖一周駅伝、室内棒高跳湖西大会、浜松シテイマラソン、静岡駿府マラソンが残っております。無事終了できますよう皆様のご協力をお願いいたします。最後に、陸協一般財団化の件ですが着々と準備を進めております。今年度中に申請して認可を受けたいと思っておりますのでご理解、ご協力をお願い致します。



## 支 部 報 告

平成二十三年度  
東部陸協の活動を振り返って

東部支部理事長 望月 紘一

本年度の活動は新東名マラソンがすべてであったような気がします。もちろん、そんなことはなくそれ以外のいろいろな活動はあったのですが新東名マラソンの実施が年度の終わりの直近の事業であったこと、様々な問題があり、様々な意見、ご批判に曝されたことなどから、そんな感じがぬぐえないのかもしれない。

実施に当たっては静岡県、静岡新聞社、東部陸協が協力して実行委員会を作ったという行いでしたが、資金面については新聞社がすべて行うということになっていました。

私たちは日本陸連公認コースを取得し、立派に競技運営を行うという任が課せられていました。東部陸協には日本陸連の事務局で長い間活躍していた函南町在住の砂原晋氏と県陸協の施設委員長である久保田金也氏（富士市立高校）がおり、二人を中心に公認コースを取得しました。

五〇〇人を超す審判員と補助員の確保については審判部の真下氏と各市町陸協の理事長様方、そして高体連の村井先生（富士見高校）に協力いただき、何かと確保できましたが、西部陸協の荒川氏、森戸氏をはじめとする中西部からの応援もたくさんいただきました。ご協力本当

に感謝しております。

大会前日の十一月十九日は嵐のごとき豪雨の中、加藤学園の勝又先生がバスを運転してくださり、スタッフ一同コースの確認をいたしました。

一明けて翌日、大会当日は二十六度という時季はずれの高温下のレースとなりました。前日の嵐で使用できなくなってしまうコップやトイレレットペーパーの補給もなく心配していた水も不足し、参加者の何名かの方々には、大変ご迷惑をおかけしてしまい、申し訳なく思っております。

しかし、劣悪な条件の中、審判員、補助員の高校生の皆さんは様々な工夫を凝らし、ベストを尽くして頑張ってくれました。

心配された体調不良者については翌日には全員が回復できたことを確認し、関係者一同、胸をなでおろすことができました。

今大会には県内有名アスリートとして、2キロメートルの部で勝亦雅也、裕子選手夫妻。5キロメートルの平田優子選手、10キロメートルの星野芳美選手をゲストに迎え、大会を大いに盛り上げていただきました。

その他、バナナを一万本以上寄付してくれた小野愛二君、豪雨の中、びしょぬれになりつつコースの最終チェックをしてくれ、夜遅くまで漏れがないか細心の神経を配ってくれた梶寿男君、救護の実践的な責任者としてトレーナーを確保し、最終ランナーまできちんとした見守りをしてくれた青木謙介君には心から感謝をお伝えしたいと思います。

最後に静岡陸協会長の鈴木修氏には多方面からの悪質な誹謗、中傷等の攻撃から私たちを守っていただいたことに深く感謝し、反省すべきは反省し、これからの活動の発展のためにさらに努力していくことをお誓いいたします。ありがとうございました。

平成二十三年度  
中部陸上競技を振り返って

中部支部理事長 大塩 正則

二十三年度を振り返ってみますと、東日本大震災と原発事故からの復旧・復興を願う毎日でした。四月に予定されていた中部陸協主管の日本平桜マラソン大会と焼津港マラソン大会は、震災直後であり、やむなく中止させていただきました。

その後は主催・主管したすべての競技会は無事終了することができました。それも五支部会員の皆様のお力添えの賜もの、深く感謝申し上げます。中部地区の選手の活躍を振り返って見ると、全国大会で活躍した選手は、前年に比べ向上がみられました。なかでも第二十七回全国小学生陸上競技交流会において五・六年生女子走幅跳で小野田史紗（千代田A.C）さんが4m96の自己ベストで優勝、全日本中学校陸上競技大会では、女子八〇〇mで松本奈菜子（清水四中）さんが2分09秒20の好記録で見事優勝、松本さんは一五〇〇mでも4分29秒74で七位に入賞しました。全国高校総体陸上では、男子走幅跳で松原奨（東海大翔洋）君が二位、記録は7m37の好記録でした。山口県で開催された国民体育大会では、成年少年

男子共通四×一〇〇mリレーの二走に羽根聖也（日体大・藤枝明誠高出身）君、四走に飯塚翔太（中央大・藤枝明誠高出身）君が出場し39秒83の好記録で優勝、この種目の二連覇に貢献しました。また、少年男子B走幅跳で土屋裕輝（東海大翔洋）君が7m28の好記録で二位に入賞しました。国体会場で、高校優秀指導者として藤枝明誠高校の清尊徳先生、中学校優秀指導者として大里中学校の小川富男先生が受賞されました。二十四年度を向え中部陸協としまして、各種大会の競技運営の成功に向けて、会員皆様のより一層のご支援ご協力をお願いいたします。

## 西部支部 一年を顧みて

西部支部理事長 鳥井 啓市

昨年三月の東日本大震災は、高度文明による豊かさの中にある私たちの在り方に警鐘を鳴らし、奇しくも人としての「絆」の大切さをより強く想起させてくれました。年度当初、全国的に各大会の開催可否についての議論がされる中、会員の皆様には役員或いは審判として多方面にご尽力戴き、深く感謝申し上げます。おかげをもちまして、今年の西部支部競技者の活躍は昨年にも増して輝かしく、総じて素晴らしい成績を収めてくれました。

一般では第十三回世界選手権テグ大会（韓国）にスズキ浜松A.Cから村上選手（やり投）、石代選手（十種競技）、海老原選手（やり投）が出場し、高校生おいては小池君（浜松市立・走高跳）、名倉

さん(浜松市立・四〇〇m)、萩田さん(浜松工・一〇〇mH)がそれぞれ出場しました。世界の舞台でベストパフォーマンスを發揮することはできませんでしたが、海老原選手は決勝進出の九位、小池君は五位に入賞しました。第十九回アジア選手権大会(兵庫)ではスズキ浜松ACからは三名が出場し、村上選手(やり投・優勝)、武田選手(三〇〇〇mSC第五位)、村川選手(砲丸投・第九位)の成績を収めてくれました。

さらに、全国大会優勝者(チーム)は左記の通りでした。

○第九十五回日本陸上選手権 (六月十日〜埼玉)

男子三〇〇〇mSC・武田 毅

(スズキ浜松AC・8分37秒14)

男子砲丸投・村川洋平

(スズキ浜松AC・18m35)

男子やり投げ・村上幸史

(スズキ浜松AC・82m75)

男子十種競技・右代啓祐

(スズキ浜松AC・八〇七六六・日本新)

○第八十回日本学生対抗選手権 (九月九日〜熊本)

男子棒高跳・笹瀬弘樹

(早稲田・5m40)

○第六十四回全国高校総体 (八月三日〜岩手)

男子走幅跳・平 龍彦

(浜松市立3・2m10)

○第六十六回国民体育大会 (十月七日〜山口)

少年少女A四〇〇m・名倉彩夏

(浜松市立2・54秒38)

○第五回日本ユース選手権

(十月二十一日〜愛知)

女子四〇〇m・名倉彩夏

(浜松市立2・54秒34大会新&県新)

女子四×一〇〇mR・浜松市立高校

(鈴木・杉浦・名倉・建部 46秒77大会新)

また、一本の「たすき」に「絆」を託す駅伝競走においても、一丸となった結束力を見ることができました。県高校駅伝では、浜松日体高校が全区間一位の完全優勝で三年連続六回目の全国出場を決め、晴れの舞台となる全国大会では、県勢十八年ぶりとなる入賞(第七位・2時間6分7秒・県高校最高記録)を果たし、第十二回県市町駅伝においても、浜松市西部が優勝、浜松市北部が第五位、浜松市中央が七位、湖西市が八位、磐田市が十位という、鮮やかな走りを展開し、まさに県西部の「絆」の強さを他に誇る成績、快挙を成し遂げました。

加えて、春・秋開催の西部小学生陸上の盛り上がりがあります。年を重ねるとに盛んとなり、来年度は種目等の変更を余儀なくされる程であり、その定着ぶりは、普及、さらには強化に繋がってきていると感じます。

中体連競技者の活躍もめざましく、特に国体の得点では西武勢がその力を大いに発揮し、天皇杯第二位に尽力した年となりました。

この一年を顧みますと、競技者の頑張りは勿論のこと、それを支える指導者の方々の御尽力も決して見逃せないものがありました。この一年の勢いをさらに加速すべく、本年度の助成事業として浜松市の協力も戴き、写真判定機を購入し、

ホームストリートでの逆走、バックストリートでの計測が可能となりました。今後とも、競技力向上がメインにはなりますが、大会運営上改善すべきことがあります。大会運営上改善すべき点、意見が相互に気持ちよく大会に協力戴ける形を模索していきたいと考えておりますので宜しくお願ひ致します。

来るべき来年度は奇しくもオリンピッククイヤーにあたることから、西部としての「絆」をより強くして、更なる前進を果たしたいと考えておりますので、会員の皆様の益々の御協力を切にお願ひ申し上げる次第です。

### 県陸上略史(12)

#### 県陸上競技大会幕開け

参与 伊藤英一

日本体育協会の創立は一九一一年、本年度で一〇〇の記念行事があった。

陸上競技の日本選手権大会の第一回は一九一三年(大正二年)十一月一日〜二日陸軍戸山学校で開催された。

静岡県の全県的大会は、一九二二年(大正十年)五月一日静岡師範学校庭(現在の静大静岡附属中学校)にて、静岡県学校部と県連合青年団主催(会長は道岡知事)で二市十三郡の郡市教育会対抗、郡市青年団対抗、師範・中等学校対抗の三部対抗で開催された。(トラックは一周二八〇mであったと思われる)

競技は男子のみであった。(女子は一九二四年大正十三年二月二十四日静岡高女II現静岡城北高校、グラウンドは現末広中学校庭で開催された。)

種目は、一〇〇m、二〇〇m、四〇〇m、八〇〇m、十マイル、リレー、走高跳、走幅跳、棒高跳、円盤投、槍投であった。団体優勝は、青年団は富士郡(町村名・芝富、上野、上井出、大宮、鷹岡、伝法、富士、島田、今泉、吉永、元吉原、北山、袖野、白糸、富丘、富士根、大淵、岩松、田子浦、吉原、原田、須津)教育会(小学校教員)は富士郡、学校対抗は静岡師範(現静岡大教育学部)であった。

女子の第一回参加校は、三島高女、吉原不二高女、沼津高女、大富高女、巴高女、静岡高女、精華高女、静岡女子師範、藤枝高女、島田高女、掛川高女、見付高女、森実科、北浜実科であった。一部一・二年生、二部三・四年生の二部制で行われた。走高跳は女子としては足をふりあげての跳び方が校長会で論議され種目より除外された。

二〇〇m優勝の北島きみ選手(森実科)は第一回明治神宮大会(一九二四年大正十三年十月三十日)三段跳で10m07で優勝している。また深沢とき選手(静岡精華高女II現静岡大成高校)は第二回明治神宮大会で走高跳1m42の日本新記録で優勝している。

県陸上選手権大会は、一九三三年(昭和八年)六月四日静岡師範グラウンド(現静大附属中学)で第一回が開催され第七回大会一九三九年(昭和十四年六月四日)その幕を閉じた。

一九二一年(大正十年)第一回県大会が開催されており本年度二〇一一年で丁度九十年、極めて意義ある三年を迎えたのである。平成二十四年度は一〇〇年への第一年度で益々の発展充実を願うもの

である。(完)

# 各委員会活動状況

## 総務委員会

- ◇平成二十三年度 優秀選手(2)
  - 〔五・六年女子走幅跳〕 優勝 4 m 96
  - 小野田史紗さん (千代田 A C)
  - 〔五・六年女子四×一〇〇 m R〕 第二位
  - 裾野市陸上教室 根岸茉莉
  - 根岸莉子
  - 松山由奈
  - 池谷真蓬

◇全国交流大会の結果から  
 ※静岡新聞・静岡放送スポーツ賞

- ・優秀指導者賞 水野敏夫 (ミズノ S C)
- ・優秀選手賞
  - 村川洋平 (スズキ浜松 A C)
  - 右代啓祐 ( )
- ・優秀チーム賞
  - 団休少年・成年共通
  - 男子四×一〇〇 m R

渡邊 悟・羽根聖也  
 日吉克実・飯塚翔太  
 ※前年優勝同タイム

- ・奨励賞 (高校)
  - 平 龍彦 (浜松市立高)
  - 名倉彩夏 ( )
- (中学)
  - 松本奈菜子 (清水第四中)

(総務委員長 石野吟策)



## 競技委員会

### 新しい試み

本年度新しい試みを行ったので、その概略を紹介したい。

リレー競技でバドンの受け渡しを撮影し、審判長や上訴審判の資料作成を試みた。リレー競技で失格が発生した場合でも、審判長や上訴審判はその場所に居合わせている訳ではなく、抗議があってもその証拠となる資料は無いことが普通である。このような場合において資料になるようにビデオ撮影を考えた。具体的にはハイビジョンビデオカメラで撮影し、その動画データをパソコンに取り込み、コマ送りをすることを可能にした。一走から二走のゾーンと二走から三走のゾーンには三台のビデオカメラ、三走から四走のゾーンには一台のカメラの合計七台のカメラを用意した。簡易的にゾーンの出口だけを撮影する場合には、一走から二走と、二走から三走のゾーンには二台ずつ、三走から四走のゾーンには一台の合計五台で撮影することも可能である。カメラの位置は、三走から四走を除き基本的にホームストレート上段にした。この位置に設置すればほぼゾーンの真横に近い位置から撮影でき、そのままパソコンにも取り込むことが可能である。三走から四走のゾーンをほぼ真横から撮影できる位置からも比較的近くなる。円盤投とハンマー投の囲いによって撮影ができる場所の場合には、その位置が撮影できる場所にカメラを移動して撮影し、撮影が終了後にパソコンの場所にカメラを持ってきてパソコンに取り込んだ。実際には県大

会以上のレベルの競技会で撮影を行った。今後は審判員や補助員を確保できる競技会では、できるだけ撮影を行い、審判長が判定する補助資料としたい。この考えを応用し、長距離記録会では着順判定の補助にも活用した。長距離記録会では、その性格上一度に多数の競技者がフィニッシュするために着順の判定が困難になる場合がある。この時にビデオを撮影しておくことで着順判定の補助に使うことも可能である。

(競技委員長 永田勝久)

## 強化委員会

第六十六回国民体育大会「おいでませ！山口国体」は山口県維新百年記念公園陸上競技場において、十月七日から十一日までの五日間の日程で開催されました。陸協の多くの方々のご支援とご協力を頂き、天皇杯二位・皇后杯五位という結果を残すことができました。厚く御礼申し上げます。

◎結果報告 (入賞者)

- 成年共通男子四×一〇〇 m R
  - 渡邊 悟・羽根聖也・日吉克実
  - 飯塚翔太
- 二年女子四〇〇 m
  - 名倉彩夏
- 二年
  - 成年棒高跳
    - 鈴木崇文
  - 少年共通走高跳
    - 平 龍彦
  - 少年男子 B 走幅跳
    - 土屋裕輝
  - 少年女子 A 三〇〇〇 m
    - 榊原美希
  - 三位
    - 少年男子 A 四〇〇 m
      - 横山直広

- 少年女子 A 一〇〇 m H
  - 萩田梨菜
- 少年男子 B 一〇〇 m
  - 日吉克実
- 四位
  - 少年男子共通棒高跳
    - 植松倫理
  - 少年男子 B 砲丸投
    - 赤間祐一
  - 少年女子共通棒高跳
    - 山田真実
  - 少年女子 B 一〇〇 m H
    - 杉山玲奈

- 五位
  - 成年女子走幅跳
    - 渡邊千洋
  - 成年女子一五〇〇 m
    - 三郷実沙希

- 六位
  - 少年男子 A ハンマー投
    - 巻幡壮志
  - 少年男子 A ヤリ投
    - 堀水航司
  - 少年女子共通走高跳
    - 松島美羽留

- 七位
  - 成年女子棒高跳
    - 青島綾子
  - 少年女子 B 一五〇〇 m
    - 山本菜緒

反省

今年の国体は、大会直前に怪我による選手変更などがあり、不安材料を抱えてのスタートとなった。大会前半は思うように得点が伸びず心配されたが、浜松城北工業の投擲二選手の入賞がチームの雰囲気を一気に変えた。終わってみれば優勝と一・五点差の二位であった。この背景には、高校生を中心とした競技力向上対策事業による、ジュニア合宿からの継続指導が考えられる。ジュニア合宿は競技力の向上に大きな成果をあげているとともに、各コーチとのコミュニケーションをはかる上で大変大きな成果が出ていると考える。

強化委員会としての今後の課題としては、少年種目の継続した強化はさることながら、今大会、僅か十六・五点に終わった成年種目の強化のため、高校から大学

へ進学する上でのトレーニングのプランクをなくすなどの工夫が急務となつてい  
る。この成年種目の強化については今後、  
県内企業の協力を期待したいところでは  
あるが、まずは成果が出ている中学・高  
校の継続した指導による強化の延長で、  
成年の強化を図っていきたいと考える。

(強化委員長 杉井将彦)

### 普及委員会

本年度も小学生が活躍してくれた。  
八月に横浜で行われた全国小学生陸上  
競技交流大会では、五・六年女子走幅跳  
で小野田吏紗選手(千代田AC)が優勝  
(4m98)。惜しくも5mのジャンプは見ら  
れなかったが、全国ランキング一位の実  
力を見せつけてくれた。また、五・六年  
女子四×一〇〇mRで裾野市陸上教室  
(根岸莉子、松山由奈、池谷真逢選手)  
の第二位(52秒55)、五年女子一〇〇m  
での村山鈴果選手(下田敷根JC)の七  
位入賞が光った。

同月、名古屋で行われた東海小学生リ  
レー競走大会では、男子リレーで浜松河  
輪ACが二位、女子リレーで富士陸上教  
室が二位、下田敷根JCが三位、混合リ  
レーで浜松陸上が二位になったのをじ  
め、県内参加九チームがすべて決勝に残  
り、八位入賞を果たした。

全国大会・東海大会に向けては、七月  
に、選手・チームの士気を高め、互いの  
練習法等を見る機会として、選抜練習会  
を草薙で開催した。七六名の選手、一六  
名の指導者が参加をし、前述の成果につ  
なげることができた。

またシーズン終了後の十一月には、合  
同練習会を草薙で開催した。参加選手  
七五名が、クレーマー・ジャンパンの講師か  
らSAQトレーニング等の指導を受け、  
柔軟性を高め、走・跳・投につながる基  
本的な動きを身に付けた。

十二月には指導者講習会を開催した。  
講師の高田均先生には、「体のバランス」  
の見方からゆがみや痛み等の治し方を指  
導いただいた。

県内小学生クラブチームの実態を明ら  
かにするために、県陸協主催の大会に参  
加したクラブチームに調査協力をお願い  
した。その結果、全五〇チームが活動し  
ており、所属員は三五五四人、指導者は  
三七七人であった。練習時間は平均週二  
回、二時間程度が多かった。小学生のみ  
ならず、中学生まで参加しているチーム  
が半数あり、部活動の関係もあるだろう  
が、長い目で指導に携わってする様子  
がうかがえた。しかし、チームの課題とし  
ては、指導者の確保や将来を見据えた練  
習方法などを挙げるクラブが目立ち、ク  
ラブ運営の難しさが見えてきた。

普及委員会として、県内各クラブチ  
ームが工夫したトレーニングを継続的に  
行っていることに敬意を表するととも  
に、今後も選手・指導者の一助となる活  
動を展開していきたい。

(普及委員長 豊田博幸)



(記録委員長 赤堀順一)

### 記録委員会

#### 平成23年に樹立された記録一覧表

【一般の部】										
・日本新記録	(男子)	十種競技	8073点	右代 啓祐	スズキ浜松AC	6.4-5	日本選手権混成	等々力		
	(男子)	砲丸投	18m35	村川 洋平	スズキ浜松AC	6.12	日本選手権	熊谷		
・東海新記録	(男子)	やり投	83m53	村上 幸史	スズキ浜松AC	8.14	国体愛媛県予選	松山		
		十種競技	8073点	右代 啓祐	スズキ浜松AC	6.4-5	日本選手権混成	等々力		
・県新記録	(男子)	4×400mR	3'42"37	杉浦・名倉・伊藤・建部	浜松市立高	8.7	全国高校総体	北上		
		5000mW	20'30"45	山口 貴史	東京学芸大院	4.29	チャレンジ・ミートウインくまがや	熊谷		
	(男子)	砲丸投	18m35	村川 洋平	スズキ浜松AC	6.12	日本選手権	熊谷		
		やり投	83m53	村上 幸史	スズキ浜松AC	8.14	国体愛媛県予選	松山		
	(女子)	十種競技	8073点	右代 啓祐	スズキ浜松AC	6.4-5	日本選手権混成	等々力		
		400m	54"34	名倉 彩夏	浜松市立高	10.21	日本ユース選手権	瑞穂		
	(男子)	1500m	4'19"05	三郷実沙希	スズキ浜松AC	10.9	国体	山口		
		3000m	9'07"31	榊原 美希	浜北西高	10.11	国体	山口		
		3000mSC	10'26"20	三郷実沙希	スズキ浜松AC	4.24	日本選抜和歌山	紀三井寺		
		マラソン	2'26"54	松岡 範子	スズキ浜松AC	4.17	ロンドン・マラソン	ロンドン		
		4×400mR	3'42"37	杉浦・名倉・伊藤・建部	浜松市立高	8.7	全国高校総体	北上		
	・県タイ記録	(男子)	棒高跳	3m90	青島 綾子	日本体育大	4.29	織田記念国際	広島広域	
4×100mR			39"83	伊藤卓・高瀬・日吉・飯塚	静岡選抜	5.14	関東学生対校	国立		
【高校の部】	・東海高校新記録	(女子)	3000m(日本人最高)	9'07"31	神原 美希	浜北西高	10.11	国体	山口	
		(男子)	4×400mR	3'42"37	杉浦・名倉・伊藤・建部	浜松市立高	8.7	全国高校総体	北上	
	・県高校新記録	(男子)	円盤投	45m89	木暮 旺	誠恵高	10.9	東部強化記録会	裾野	
		(女子)	400m	54"34	名倉 彩夏	浜松市立高	10.21	日本ユース選手権	瑞穂	
		(男子)	3000m	9'07"31	神原 美希	浜北西高	10.11	国体	山口	
		(女子)	5000m(高校最高)	15'45"85	神原 美希	浜北西高	9.25	日体大長距離競技会	日体大健志台	
	・県高校タイ記録	(女子)	4×400mR	3'42"37	杉浦・名倉・伊藤・建部	浜松市立高	8.7	全国高校総体	北上	
			4×100mR	46"46	鈴木海・杉浦・名倉・建部	浜松市立高	8.5	全国高校総体	北上	
	【中学の部】	・東海中学新記録	(男子)	4×100mR	43"32	鈴木翔・高橋・有川・マツナガ	浜松天竜中	11.3	エコパトラックゲームズ	小笠山
			(女子)	4×100mR(混)	47"43	渡邊菜・渡邊ひ・中井・天城	静岡選抜	10.30	ジュニアオリンピック	横浜日産
・県中学新記録		(男子)	5000m(中学最高)	15'24"94	樋口 颯	浜松日体中	10.30	日体大長距離競技会	日体大健志台	
		(男子)	4×100mR	43"32	鈴木翔・高橋・有川・マツナガ	浜松天竜中	11.3	エコパトラックゲームズ	小笠山	
			4×400mR	3'27"04	高野・高橋・マツナガ・有川	浜松天竜中	11.3	エコパトラックゲームズ	小笠山	
		(女子)	800m	2'09"20	松本菜奈子	清水第四中	8.21	全日本中学	鴻ノ池	
			走幅跳	5m85	天城帆乃香	浜松天竜中	10.28	ジュニアオリンピック	横浜日産	
		(女子)	4×100mR(混)	47"43	渡邊菜・渡邊ひ・中井・天城	静岡選抜	10.30	ジュニアオリンピック	横浜日産	
【小学の部】	・小学県新記録	(女子)	やり投(ジャベリックスロー)	35m81	望月 知葉	静岡市陸上教室	10.16	県小学生選手権	草薙	

## 情報システム委員会

平成二十三年度より静岡陸上競技協会情報システム委員長に就任しました三枝です。よろしくお願いいたします。

静岡陸上競技情報委員会は、長年におたり前任であった永田勝久氏が、静岡県で開催された全国高校総体(平成三三)・全国中学(平成八)・日本選手権(平成十一)・国民体育大会(平成十五)と主要な全国大会に対し、インターネットが普及する以前からパソコン通信等を通じて競技結果を配信、インターネット普及後は全国に先駆け静岡陸協ホームページを開設し、その利便性は皆さんご存知のことと思います。

また、県内のほとんどの競技会において利用されている競技会運営ソフト「陸上」も情報システム委員会である横山和宏氏が中心となり作成し、各地区の委員が競技終了後に修正点や改善要望を提出し、現在ではとても利用しやすく完成に近づいています。「陸上」については陸上競技マガジン(平成二三・三三)で紹介され、他県からも問い合わせがあり実際に利用する県もありました。特に東日本大震災で競技場のシステムが使えなくなった茨城県では、静岡国際陸上を視察し、その後の競技会で利用するという報告もありました。

これからも情報システム委員会は競技会においてはより正確・迅速に記録処理を行い、円滑な運営を目指すとともに、選手・観客に対しては正確な情報をより早く提供できるように研修をしていきたいと思っております。また、このようなシステ

ムを構築していくためにも記録委員会をはじめ様々な部署との連携も必要になっています。情報システム委員会への要望等ありましたらご意見を頂けたらと思います。よろしくお願いいたします。

(情報システム委員長 三枝宣男)

## 審判委員会

### 充実した審判を

激動の平成二十三年度、大きなトラブルもなく無事に終了したことは、皆様方の陸上競技に対する愛着と弛まぬ審判技術の研鑽の賜であると感謝申し上げます。平成二十四年度も引き続き各種大会へのご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。

審判委員会からのお願ですが、参加希望者の多い大会は、人手が多くお断りする場合がありますが、希望者の少ない大会では編成するのが困難な場合があります。やむをえず、希望がない方へ依頼する場合があります。誠に申し訳ありません。参加できる大会には是非とも○印をつけていただきたいと思います。

次に審判依頼部署についてですが、審判編成時、ルールや審判技術に堪能な方や経験豊富な方を中心に編成し、依頼しています。特に皆様方が納得するような編成ができず、大変申し訳なく思います。皆様方には、固定した部署ばかりではなく、多くの部署を経験していただき、審判技術を更に磨いてほしいと思っております。ご理解いただきたいと思います。大会当日は、ルールブックを熟読し、依頼された部署にてご協力いただきたいと思います。

思います。その際、決められた審判員の服装での参加を心掛けてください。

大会当日、旅費日当を終了後にお渡ししていますが、その際、印鑑が必要になります。大会開催時は、お忘れなきようお願い致します。

今回は、お願いばかりで申し訳ありません。よりよい大会を目指していきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

(審判委員長 井出幸夫)

## 広報委員会

年間事業は、三月から四月にかけて県内報道機関へ要覧・大会日程の送付と訪問から、現在、新聞社十一社(支局含む)、テレビ局五社が対象エリアである。また五月の静岡国際陸上においては日本陸連も関係したイベントであるため全国からの報道陣も集結し気をつかうところである。(本年度取材記者二五人)。また県レベル主要大会については平成十八年から統計をとり始め、六年間で平均二五二人である。

日本陸連の「時報」(月刊陸上マガジン)は年四回、県陸協情報として全国に発信している。内容も時節にあったものを選択し、事務局と検討のうえ掲載。

県陸協「会報」も今回で第十二号となる(三月・九月発行)。配布先は陸協の会員、新聞社・各関係団体内外に送付し、県陸上界のPRに努めている。また本年度は特別号として二回(国際陸上・山口国体)発行した。

平素、委員会として執筆にご協力して下さった関係者・取材協力の皆様にお

礼申しあげ報告とします。

なお情報もお寄せ願えれば幸いです。

(広報委員長 橋本美智夫)

## スポーツ科学委員会指導者講習会

講師 高田 均氏

十二月十七日(会場：草薙陸上競技場) 中学・高校の指導者を対象に、「身体の動きと歪み」について講習会を開催した。特に今回は、脳と体のバランスについての講義・実習をしていただいた。概略は次のとおりです。

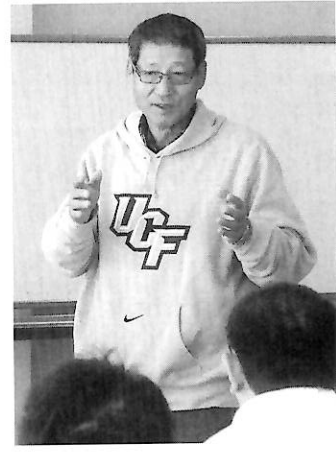
ヒトは脳だけが衰えるとか、筋肉だけか衰えるということはない。脳の働きと身体筋肉は神経系を介してセットになっており、脳が疲れていると頭脳で情報処理が身体反応にたいして円滑に行なわれず、知らない間からだに歪みが生じてくる。スポーツ選手に限らずヒトは日常の身体姿勢にちよつと気配りするだけでもチェックはできる。身体運動は、押す・引く・前後・左右・ひねり等の動作は全て脳と連動している。筋肉の緊張をほぐし、からだをリラクセスさせる。からだの歪みは誰もがかなり小なり生ずる現象である。したがってストレッチや操体法等も有効な手段のひとつである。

またスポーツにおいて、やる気をおこす契機は意欲を出そうとしている脳の前頭連合野、ここは司令塔のようところで情報を統合し、判断し、命令する。その指示によって各器官は筋肉をおして反応している。

なお詳細について、お聞きしたいことがありますら、講師の高田先生にお問

い合わせ下さい。

(広報)



## 静岡県のジュニア選手 育成について (2)

昨年原稿に、ジュニアスポーツ選手が一流になるためには、「一万時間十年ルール」長期の育成期間が必要だと述べました。このルールを単純に一年間三六五日続けたとしたら、一日あたり二・七から二・八時間の練習時間になります。大学四年生または高校を卒業して四年後の二十二歳でピークパフォーマンスを迎えるためには、十二歳、小学校六年生から取り組む事になります。実際には、二十五歳から二十八歳頃に最高記録が出るようにするためにはやはり中学三年生(十五歳)頃からその専門種目に取り組んでいる事が求められます。

つい最近、プロテニスプレイヤーを引退し、結婚した杉山愛選手(二〇〇四世界トップシングルランキング八位、十七年間トップレベルを続け、男女を通してただ一人、四大大会シングルス連続六十二回出場のギネス記録を達成)の母親の杉山美沙子さんが「一流選手の親は

どこが違うのか」の著書を出版した。その中でジュニア選手の育成に大変参考になるヒントがまとめられていたので紹介したい。

彼女は、プロテニスプレイヤーの錦織圭選手、プロゴルファーの石川遼選手、宮里藍選手のご両親に彼らの子どもも時代の過ごし方を聞き、その共通点を次のようにまとめた。

一、外遊びを多くしていた。二、家族や友達と多人数で遊んでいた。三、遊ぶ場所を選ばなかった。四、専門競技の開始年齢が早かった。五、専門競技に専念した年齢は十歳前後だった。六、専門競技以外にも多種の競技をやっていた。七、専門競技以外の競技でも器用にやっていると親が感じていた。八、専門競技を選択してもその練習時間は一日三時間以内だった。九、専門競技を開始した目的は「家族の団欒」だった。十、親が「子どもに才能がある」と感じた時期は早晩やってきたが、最初から才能があるとあまり感じていなかった。十一、専門競技になつてからの親の口出しに関しては、宮里選手と石川選手の場合はやや多かったが、錦織選手と杉山愛選手の場合はあまり多くなく、自由であった。いずれの選手も、子どもの自主性が尊重されていた。十二、親が子どものスポーツへの取り組みを強力にサポートしていた。親側も無我夢中であった。十三、スポーツ以外の習い事については、最初は親の判断で決めていたが「習い事をやらせて良かった」と親が感じていた。

以上、ジュニア選手の育成に大変参考になる。中でも一日の練習時間は三時間

以内であった報告しており、「一万時間十年ルール」がしっかり織り込まれていた。

ところで、今年の三月下旬、東部陸協所属の小学生チームが台湾に友好親善試合に参加することになっている。これは、ジュニア選手の競技への強い動機づけ、また指導者と親の相互の信頼関係作り、大いに貢献するものと期待される。

陸上静岡の喫緊の目標は、小中高の一貫育成による選手育成にあると思う。ぜひ強化部・普及部が更なる協力体制を敷くことで、国体を始めジュニア選手権、インターハイ、インカレ、日本選手権に再びオレンジ旋風が吹き荒れん事を願っています。

(医学委員長 伊藤 宏)

## 高体連(全日制) 平成二十三年度を振り返って

今年度の事業も無事に終えようとしています。今年度は四年に一度の東海総体・東海駅伝の開催当番県として、例年以上に関係者の皆様にはお世話になりました。両大会がなんとか実施できたのもひとえに皆様のご協力があったからだと思います。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、県内高校のこの一年を振り返ってみたいと思います。高校総体においては、平龍彦君(浜松市立三年)が走幅跳で見事に栄冠を勝ち取りました。また浜松市立高校が女子四〇〇リレーで昨年の優勝に続き今年も二位、一六〇〇リレー

でも二位、総合でも六位に食い込む活躍をみせてくれました。その他、個人で男子八種目に八人、女子五種目に五人が入賞しました。都道府県別の得点では、本県は男女とも八位という結果でした。男女それぞれトップの兵庫県と埼玉県には点数で三〇点以上の差があります。今年度は男子のトラック種目での活躍が寂しかったように思われます。高校駅伝では、男子は浜松日体高校が二年連続の完全優勝(全区間区間賞)、女子は大激戦の末三島北高校がレースを制し都大路への切符を手に入れました。その全国大会では、それぞれ七位、四十位の結果でした。浜松日体高校の力は県内関係者の中でも評価が高く、全国の強豪校と対等に戦えるのではないかと期待に見事に応えた七位という成績は、久しぶりの入賞となりました。顧問、選手その他関係者の努力の賜物だと思われれます。

我々が指導しているほとんどの高校生は、競技スポーツとして陸上競技に取り組み、良い結果、個々の目標達成のために日々努力をしています。勝負に勝った目標を達成するのは非常に難しいですが、それに向かって励んできた高校生が、出た結果に対して、思い切り喜んだり悔しがったりすることができるよう、そしてそのことがひとりひとりの今後の人生の肥やしになるように我々顧問は携わっていかなくてはならないと思っています。

来年度も是非、皆様方のお力添えで、素晴らしい高校生、素晴らしい競技者を育成していただけるようお願いいたします。

(全日制委員長 望月勇志)



### 高体連 (定通制)

定通制の大会は六月の春季大会と、十月の秋季大会があり、春季大会で三位までに入賞した選手が出場する全国大会があります。今年度は四十名が全国大会に出場しました。

全国大会の結果は、男子では浜松大平台の田中君が八〇〇mと一五〇〇mで優勝し二冠を達成しました。八〇〇mでは圧勝したものの、一五〇〇mでは二位と百分の七秒差という大接戦でした。女子では静岡中央の曾根さんが走高跳で三位に入賞しました。男子は五種目、女子では四種目の入賞と苦戦し、全体では男子総合が辛うじて六位になったものの男女総合では入賞を果たすことができませんでした。男子総合優勝をした一昨年はピークに入賞数も減少していますが、合同練習会を定期的に実施しチーム全体として盛り上がっている都府県もあり、見習うべきものがあると感じております。選手数の減少には歯止めが掛からず、秋季大会では女子の参加校が四校のみとなつてしまいました。最近では広域通信制の高校が新規加入をしており、参加者の増加に期待をしております。

最後になりますが、毎年多大な協力を頂いている東部陸協ならびに中部陸協、中部高体連その他関係各位にこの場を借りて御礼申し上げます。今年度も引き続き御協力をお願いいたします。

(定通制委員長 浜田俊則)



### 中体連一年間を振り返って

第三十八回全日本中学生陸上競技選手権大会は、奈良県鴻池陸上競技場で開催され、本県からは男女でのべ六十七種目に参加しました。競技は、八〇〇mで松本さん(清水四)の県中学新記録での優勝をはじめ六種目で入賞という成績でした。

また、横浜日産スタジアムで行われた、第四十二回ジュニアオリンピックでは、走幅跳の天城さん(浜松天竜中)が県中学新記録で、女子のリレーチームが東海新記録であわせて二つの優勝を含む十一種目で入賞することができました。

さらに、山口県で行われた全国中学校女子駅伝では、御殿場富士岡中が準優勝をおさめました。

これらのすばらしい成績は、顧問の先生方の日常の指導、あるいは強化スタッフによる県合宿の指導があります。こうした指導者の熱心さには、頭の下がる思いです。

最後に、本年度も中学生の大会運営にご協力をいただいた本協会の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(中体連部長 鳥居俊秀)

### クラブチーム紹介

#### 天竜陸上クラブ

私たち天竜陸上クラブは、浜松市天竜区(旧天竜市)の小学生が集まって活動しているクラブです。平成十八年の発足から今年で六年が経ちます。発足当初は

十数名で活動する小さなクラブでしたが年々とクラブ生が増加し、現在では七十名程度が所属しています。

練習は、毎週水曜日に天竜市民グラウンドで行なっています。各々の体力や目標に合わせて「体力作りコース」と「競技志向コース」の二部に分かれて練習しています。

前者は、体を動かすこと・走ることに楽しさを知ってもらうことを目標としています。ウォーミングアップやストレッチの仕方から始まり、スキップや腿上げ等の簡単な動き作りを行なった後、変型ダッシュ(色々な姿勢から立ち上がりダッシュをする)やリレーといった走練習を行なっています。練習を通して、体力の向上はもちろん、子供達に運動が好きになるきっかけを与えられればと思います。

後者は、エコパや草薙で行なわれる各種大会に向けて練習をしています。全体で行なうウォーミングアップと動き作りでは、一つ一つの動きを丁寧に、走りにつながるように意識させています。メインの種目練習では、短距離はスタートダッシュやバトン練習を、長距離はフォームを意識した、ジョックとシヨートインターバルを中心に走力を高めています。

また、今年度より当コースのクラブ生は全員が大会に出場することにしました。大会を経験することで各々の意識が高まり、チームの雰囲気がよくなつてきていると思います。

練習量は決して多くありませんが、今年度も県レベルの大会において活躍する選手が育ってきました。四×一〇〇mR

において、五年生女子チーム(荒川静香さん・塩崎初美さん・鈴木優子さん・鈴木真子さん)が静岡リレーカーニバルで三位、静岡国際陸上で五位に入りました。個人でも、ジュニアクラブ選手権で一〇〇m・走幅跳の鈴木真子さん、六〇〇mの片桐葵くんが入賞を果たしました。先日、十二月に行われた市町対抗駅伝にも、浜松市北部チーケの代表として荒川静香さんが選考会を勝ち抜いて出場しました。

最近では、クラブを卒業して中学や高校で陸上競技を続けている先輩たちが練習を引っ張ってくれています。指導する立場としても、教え子が長く競技を続けてくれることは嬉しく思いますし、その土台作りをしてあげるのが私たちの役目だと思っています。今後も楽しく走ることをモットーに一回一回の練習を大切にしながら活動していきたいと思っています。

(クラブ指導者 小木康寛)



# 全国都道府県対抗駅伝

〔女子〕

第三十回大会は一月十五日、京都市西京極陸上競技場を発着点とし、九区間42・195kmのコースで行われた。本県は第七位（2時間18分32秒過去最高タイ）入賞を果たした。今回で四年ぶり四回目である。レース展開前半は我慢、後半・終盤の追い上げが今大会の結果を生んだ。

順位	17	21	8	9	19	12	10	8	7
区間	1	2	3	4	5	6	7	8	9
記録	19分13秒	13分13秒	13分14秒	13分13秒	13分9秒	13分32分	13分53分	13分46分	13分46分
選手	松本 大	松本 大	松本 大	松本 大	松本 大	松本 大	松本 大	松本 大	松本 大

順位	8	10	10	8	12	15	17
区間	1	2	3	4	5	6	7
記録	20分9秒	24分9秒	24分14秒	25分9秒	25分9秒	25分9秒	25分9秒
選手	松本 大	松本 大	松本 大	松本 大	松本 大	松本 大	松本 大

〔男子〕  
第十七回大会は一月二十二日、広島市平和記念公園前を発着点とし、七区間48

kmのコースで行われた。本県は第十七位（2時間20分19秒）だった。前半・中盤は好位置をキープしたが、後半・レースの流れに乗れなかったのが残念である。次回を期待したい。（報道）



## 各駅伝大会

県中学駅伝は十一月十二日、エコパ周回コースで行われた。初優勝した小山中学は、校内体力テスト上位者選抜（サッカー・バスケット・野球部）編成チームとして出場、他校陸上部と堂々戦いぬいた。六区間18・38kmを58分7秒の記録で県中学の頂点にたった。また女子は前年度全国優勝の経験のある御殿場富士岡中学チームが栄冠を勝ち取った。

全国高校駅伝は十二月二十五日、京都市西京極総合運動公園陸上競技場を発着点とするコースで行われた。浜松日体高男子チームは七位（2時間6分7秒・県最高記録）入賞した。これは本県として十八年ぶりである。

しずおか市町村対抗駅伝競走、第十二回大会は十二月三日、静岡市街コース（県庁前スタート・草薙陸上競技場ゴール）で行われた。優勝は市部門、浜松西部チーム（2時間13分15秒）が二年連続、町部門は長泉町チーム（2時間23分11秒）が四年連続を果たした。

## 新人戦大会

市部	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
市部	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
町部	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
町部	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

県中学新人陸上競技大会は十月八日（草薙陸上競技場）行われた。浜松天竜中学の有川湧貴選手が男子共通四〇〇mを大会初の51秒09で優勝、女子は同中学の天城帆乃香選手が共通一〇〇m（12秒61）・共通走幅跳（5m38大会新）、共通四〇〇mリレー（49秒46大会新）ではアーカーを務め三種目を制覇した。

東海高校新人陸上競技大会は十月二十九・三十日に岐阜・長良川競技場で行われた。男子八〇〇m（1分56秒80）は吉田高校の小川恭生選手が優勝、同三〇〇m障害（9分26秒42）は富士宮西高のセルナルド祐慈選手が頂点にたった。また女子一〇〇m（12秒17）は東海大翔洋高校の高山真里奈選手、同二〇〇m（23秒16）は静岡市立高の松本沙耶子選手がそれぞれ優勝した。女子一〇〇m障害出場の浜松商業高の飯尾玲菜選手も41秒53の記録でV達成した。（報道）

## 全日本実業団陸上大会

平成二十三年九月二十三日から二十五日にかけて、徳島県鳴門ポカリスエットスタジアムで開催した。本県関係の選手では男子二〇〇m高瀬慧選手（富士通、静岡西高出）が20秒62（追風参考）で優勝。四×四〇〇mリレーは第二走として出場、3分7秒74の記録で優勝に貢献した。男子棒高跳び、鈴木崇文選手（ミズノ、富士宮高出）は5m40で優勝。同種目川口直哉選手（モンテローザ、磐田南高出）は5m20で三位入賞。女子一万mは中村仁美選手（パナソニック、浜松日体高出）が32分23秒49の記録で二位入賞。女子走り幅跳びは渡辺千洋選手（浜松観塚中学教）が5m93、女子走り高跳びは松下小織選手（浜松商高教）が1m65でそれぞれ五位入賞を果たした。（報道）

## 天皇賜杯

### 日本学生陸上競技対校選手権大会

平成二十三年九月九日から十二日にかけて第八十回大会が熊本県民総合運動公園陸上競技場で開催した。本県出身の学生選手が全国の大学で活躍し上位入賞（男子十一種目・女子四種目）した。特に飯塚翔太選手（中央大学・藤枝明誠高）は男子二〇〇m・四×一〇〇m二種目で優勝し母校の総合優勝に貢献。また男子棒高跳びは笹瀬弘樹選手（早稲田大学・浜松市立高出）が三年連続優勝、女子棒高跳びでは青島綾子選手（日本体育大学・磐田農高出）が第二位入賞を果たした。（報道）



# 第七十八回小中学生 種目別陸上大会

大型台風十五号が去り、県内にも爪痕を残した。会場である静岡市西ヶ谷陸上競技場も多少の被害はあったものの予定どおり開催（九月二十四日）で関係者をホッとさせた。

県内（東・中・西部）から一六四五名の選手がエントリーし、短・中・長距離、跳躍、投てきに挑んだ。当日朝にぎやかな受け付けから始まった。学年別とあって応援の保護者も多く、特に小学生（四・五・六年）のレースはでひときわ大きな声援がとんだ。

この大会で男子走高跳びに期待の星が現れた。中学一年後半から陸上走り高跳びを始めた海野智輝選手（静岡観山中二年）、1m80の大会新記録（第三十二回以来）で優勝。小学生走幅跳びでは、全国小学生交流大会で大活躍した小野田吏沙選手（千代田A.C）4m65で優勝、大会記録も更新した。

やがてこの陸上好きな子どもたちの夢が、一人でも多くかなうよう成長を見守り期待したい。（広報）

## わかふじスポーツ大会 （静岡県障害者スポーツ大会）

第十二回、県障害者スポーツ陸上競技大会が九月十八日、静岡草薙陸上競技場で開催された。主催は静岡県・静岡市・浜松市・県障害者スポーツ協会等、後援として県体育協会・県教育委員会・県市町会・県内各新聞社テレビ局が全面協力

のもと毎年行われている。この大会目的は、障害者スポーツの振興を図るとともに、障害のある人に対する社会の理解と認識を深め、障害のある人の自立と社会参加の促進に寄与することを目的としている。また、今回の個人競技の記録は全国大会派遣選手の参考基準ともなり、県下各地域から参加した選手たちは、走・跳・投の種目で記録に挑戦し、よい汗を流した。なお平成二十四年は十月、岐阜県を会場に開かれることになっている。（広報）

## 陸連情報

女子短距離陣が新年早々一月六日、北海道恵庭市で合宿を開始。特に五輪四〇〇mリレー強化が目的で、エース格の福島選手ら九人が参加した。

同種目の五輪出場権は、昨年一月から今年七月二日までの好記録二レースのタイムが基準となり、上位十六カ国・地域に与えられる。（報道）

## 編集後記

二〇一二年新しい年を迎えました。今年七月下旬から英国ロンドン、五輪スタジアムでオリンピックが開催されます。ロンドン開催は三回目であるが、我が国が参加するのは初めてである。本県スズキ浜松A.C所属の村上幸史・海老原有希両選手（やり投げ）・男子十種競技右代啓祐選手への期待は大きい。（広報）

## Photograph

- 新東名マラソン大会
- しずおか市町対抗駅伝
- 県小学生陸上選手権大会
- 県中学新人陸上大会
- 県高校新人陸上大会
- 県高校駅伝大会

〔編集〕

県陸協広報委員会・県陸協事務局  
○橋本美智夫（編集・文責）

- ・水谷陽介（編集委員）
  - ・片岡佳美（編集委員）
  - ・矢邊進
  - ・内田光英
  - ・亀山健士
  - ・山口文男
  - ・松井清和
  - ・田部井昭博
- 写真（陸協報道 大多和・橋本）  
（印刷・大日紙業株）



